中学生徒会とPTAが校内募金

遺児の進学を支援しようと、独自に募金を実施する動きが広まっている。大阪府の豊中市立第二中学校では2月15日と16日、募金活動が行われた（写真）。

きっかけは1月26日のテレビ朝日「報道ステーション」で、コロナ禍におけるあしなが奨学生家庭の苦境が取り上げられたことだった。たまたま番組を見た同校PTA運営委員の田中美加さんが、「学校でなにか力になれないか」と提案。PTA会長の矢森和枝さんが、田中明美校長に話を持ちかけ、PTAと生徒会の共催による校内募金の実施が決まった。

活動の中心となったのは生徒会執行部の5人の生徒。手作りの募金箱を作ったり、プリントや校内放送で事前告知をしたりと、協力して準備を進めたという。

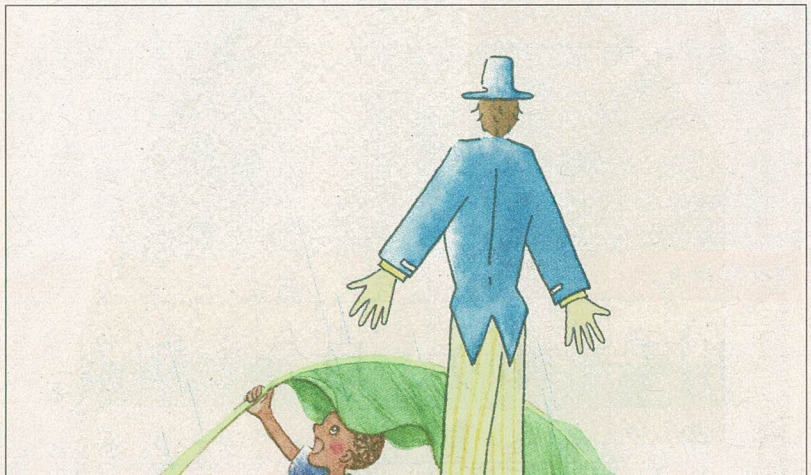
当日は生徒会執行部の5人とPTA役員の保護者3人が、各日30分にわたり校門前で、登校する生徒らに向けて募金を呼び掛けた。

生徒会書記の西岡玲南さん（2年）は「募金は初めての経験だったが、誰かの役に立てたという実感ができよかった」と振り返る。

矢森会長は「ポチ袋にお金を詰めて持ってきてくれた生徒もいて感動した。子どもたちが社会貢献について考えるきっかけになった」と話す。

2日間で集まった募金は6万3231円。日本国内の遺児の奨学金として本会にご寄付いただいた。

生徒会長の根矢優太さん（2年）は「今まで遺児のことを知らない生徒がほとんどだったが、今回の活動で支援の大切さを知ることができた。今後も継続して活動を続けられれば」と話した。（島田北斗記者）



高奨生の夢を 大奨生が後押し

オンライン進学相談スタート

高校奨学生の進学の夢を大学奨学生がサポート！

本会はオンラインによる進学相談プログラム「ココカラパレット」を開始した。

「ココカラ」には進路選択を考える始まりになって

パレット

「学校・学部選択」「生活・お金・学外活動」をテーマにグループ相談を4回行い、希望者には、大学奨学生との個別相談も行った。

者の方（東京都）は、「コロナ禍で、ひとり親家庭の保護者として常に背筋が寒い、不安な気持ちだった。大学生がこんなに自分のこ

んへ

お知らせします。あ
ルでも情報を配信し
さい。今後の予定、
kokara@ashinaga.
大学生と一緒に楽
う工夫しています。

ていらっしゃったのでスムーズに進んで
話を聞けて勉強になりました。
大学生活や心塾について聞けてすごく勉
験のモチベーションにもなりました。
お金の具体的な使い方がわかって自分の
になるのでとても良かったです。
得意で自信がないところ、皆さんがとっ
をしてもらえたので安心して参加するこ
んのような人たちの中で大学生活を過ご
りました。